

## UNEP からの開会メッセージ

フォーラムにご参加の皆様。

本日、この東京の会合にビデオメッセージを差し上げる機会を得たことをうれしく存じます。国連環境計画（UNEP）及びその事務局長 エリック・ソルハイムを代表し、第2回日本 UNEP フォーラムにご挨拶を申し上げます。私がこの会合に出席できなかったことをお詫び申し上げます。

1年前の前のフォーラム以降、日本 UNEP 協会は会合の開催、ウェブサイト情報の発信、UNEP の出版物の翻訳、などにより、日本の市民や専門家に UNEP とその活動について情報の提供を行ってこられました。これらにより、日本や、他国の社会に対するアウトリーチの UNEP 活動に貢献していただきました。UNEP は、日本 UNEP 協会が今後もこれらの活動を継続する計画をお持ちであることを嬉しく思っており、2017年には、UNEP と協会との関係をより堅固なものとするのが可能であると確信しております。

本日のフォーラムは、専門家や市民に対して、環境と持続可能な開発の重要性を具体的に示し、2030年アジェンダと持続可能な開発目標（SDGs）の実施状況及び将来の課題について議論する、もう一つの重要な機会を提供しています。

2030年アジェンダ及びSDGsの両者を達成するためには、種々のレベルの、各種の団体や機関のパートナーシップが必要です。これらの団体等には、政府、民間セクターやNGOsから、日本 UNEP 協会のような機関までが含まれます。特に、SDGsの第17のゴールがこの点について規定しています。UNEPは、アジア太平洋地域で、環境保全に関する先駆け・リーダーとしての重要な役割を持つ日本の各種の活動主体と協力していくことを期待しております。UNEPからは、特にバンコクの UNEP 地域事務所、及び大阪の国際環境技術センター（IETC）が重要な役割を果たします。

この会合が成功裏に完了し、UNEP、日本 UNEP 協会及び日本とアジアのパートナー達との協力がさらに強化されることを期待し、ご挨拶といたします。

ご清聴ありがとうございました。



国連環境計画 UNEP 市民社会課 課長

アレクサンダー・ユラス（Alexander Juras）

Chief, Civil Society Unit

United Nations Environment Programme（UNEP）